

令和4年度

吉野川市立川島中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

社会の担い手となるための基盤となる力を育成する。
 バランスのとれた確かな学力の育成。
 ①確かな学力の育成と個別最適な学びの実現。②生徒一人ひとりの教育的ニーズの把握と指導の充実。③「主体的・対話的で深い学び」の実現、探究的学習や体験活動を通じて他者との「共同的な学び」を充実。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
明石浩二	結城栄子(校長)中川浩幸(教頭)入交理子(人権教育主事)三橋由美(1年主任)岡崎勝(2年主任)山野井貴子(3年主任)高橋周(生徒指導主事)二條真理子(特別支援コーディネーター)

校長

結城栄子

【各校の取組状況の把握について】

管理職の授業参観および、教職員の相互授業参観、報告等において取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身についたり、与えられた課題にも真面目に取り組めたりできる生徒が多い。 ○小テストに意欲的に取り組む生徒が多い。 ○真面目に授業に参加する。 ●身につけた知識を関連づけたり活用したりすることに課題がある。 ●知識・技能を得るよりも、課題をこなすことを優先している。	・学習の過程を通して習得した知識を既習の知識と関連づけて他の学習の場面で活用することができる。 ・身につけた技能を他の学習や生活の場面において活用することができる。 ・家庭で自主的に継続的に学習に取り組むことができる。 ・基礎的な知識が定着している。	・他学年・他教科の教員が相互に授業参観を行う。 ・学んだ知識を活用する場面を設定し生徒が興味をもって学習に取り組めるよう工夫した授業を行う。 ・自主勉強ノートの効果的な使い方を指導する。 ・教科書の内容や問題文の意図、グラフ等が示す意味などの読み取りではアンダーラインを引き正確に読み取らせる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒が多い。 ○基本的な発言の仕方や、積極的に発言しようとする態度が身についている。 ●複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。 ●「より伝わる表現」を工夫する必要がある。	・各授業における課題等に対して話し合い活動等を通して解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において適切な言語活動により表現することができる。 ・自分の考えを自分の言葉で具体的にわかりやすく伝えることができる。	・ペア学習・グループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・「ことばの手帳」等、語彙を豊かにする取り組みを継続的に行う。 ・別の言葉に言いかえる、関連づける、そう考えた根拠と理由を引き出す発問を行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に対して集中して一生懸命取り組むことができ、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ○授業前の準備や課題の提出ができています。 ●分からないことを質問するなど学力向上に対する積極性が乏しい。 ●自分の考えを客観的に捉えたり不得意な学習内容に対して自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自らの課題を解決できるよう計画を立て実践することができる。 ・苦手なことにも積極的に挑戦し続けることができる。	・生徒同士が質問し合う機会を設け、教え合いができる場をつくる。 ・何を、なぜ、どのように学ぶかが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・スモールステップで達成できていることは褒める。 ・振り返りの視点を生徒に示し記述させる。 ・自分の思いや考えを「書く」場面を増やす。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

